

2015 年 5 月 21 日「カナの婚礼」

< 聖書箇所 > 「ヨハネによる福音書 2 章 1 節～11 節」

三日目にガリラヤのカナに婚礼があつて、イエスの母がそこにいた。イエスも弟子たちも、その婚礼に招かれた。ぶどう酒がなくなったので、母はイエスに言った、「ぶどう酒がなくなっていました」。イエスは母に言われた、「婦人よ、あなたは、わたしと、なんの係わりがありますか。わたしの時は、まだきていません」。母は僕たちに言った、「このかたが、あなたがたに言いつけることは、なんでもして下さい」。そこには、ユダヤ人のきよめのならわしに従つて、それぞれ四、五斗もはいる石の水がめが、六つ置いてあつた。イエスは彼らに「かめに水をいっぱい入れなさい」と言われたので、彼らは口のところまでいっぱいに入れた。そこで彼らに言われた、「さあ、くんで、料理がしらのところに持って行きなさい」。すると、彼らは持って行った。料理がしらは、ぶどう酒になった水をなめてみたが、それがどこからきたのか知らなかったで、(水をくんだ僕たちは知っていた) 花婿を呼んで言った、「どんな人でも、初めによいぶどう酒を出して、酔いがまわったところにわるいを出すものだ。それなのに、あなたはよいぶどう酒を今までとっておかれました」。イエスは、この最初のしるしをガリラヤのカナで行い、その栄光を現された。そして弟子たちはイエスを信じた。

< 説教抜粋 > 「カナの婚礼」

今日は、ヨハネによる福音書を引用しました。説教の題名は「カナの婚礼」です。「三日目にガリラヤのカナに婚礼があつて、イエスの母がそこにいた。イエスも弟子たちも、その婚礼に招かれた。ぶどう酒がなくなったので、母はイエスに言った、「ぶどう酒がなくなっていました」。イエスは母に言われた、「婦人よ、あなたは、わたしと、なんの係わりがありますか。わたしの時は、まだきていません」。

ここでは、マリヤがイエス様に、ぶどう酒がなくなったので取ってきてもらいたいと依頼をしています。それに対して、イエス様は「婦人よ、あなたは、わたしと、なんの係わりがありますか。わたしの時は、まだきていません」。と答えました。イエス様は、何故、「婦人」という言葉を使用したのでしょうか。そして、「わたしの時は、まだきていません」という言葉はどのような意味なのでしょう。

この、「わたしの時」は、イエス様の磔死と復活を意味するという解釈される場合が多いようです。つまり、まだ十字架にかかるべき時がきていないということをイエス様が言ったということです。しかし、ほんとうにそのような意味なのでしょう。この聖書箇所は、カナでの婚礼の場面です。イスラエルの風習では、男子の成人年齢が十三歳です。

ですから、十三歳になると、律法的にも社会的にも成人とみなされるのです。さらに、当時のイスラエルでは、結婚年齢が早かったようです。女性の場合は、十代前半で、既に結婚相手が定まってもおかしくなかったのです。ところが、イエス様は、当時の三十歳でした。当時にとしてみると、三十歳で独身であることはあまり考えられないことだったようです。

つまり、イエス様には結婚できなかった何らかの理由があったのでしょう。もしかしたら、イエス様の出生にまつわるいろいろな噂話が流布されていたのかもしれません。ですから、マリヤは、体面ゆえに、イエス様の結婚を望んでいなかった可能性があるのです。イエス様は母マリヤに「婦人よ、あなたは、わたしと、なんの係わりがありますか。わたしの時は、まだきていません」と言いました。つまり、ここでの「わたしの時」は、イエス様自身の結婚を指しているのではないかということです。

「母は僕たちに言った、「このかたが、あなたがたに言いつけることは、なんでもして下さい」。そこには、ユダヤ人のきよめのならわしに従って、それぞれ四、五斗もはいる石の水がめが、六つ置いてあった。イエスは彼らに「かめに水をいっぱい入れなさい」と言われたので、彼らは口のところまでいっぱいに入れた。そこで彼らに言われた、「さあ、くんで、料理がしらのところに持って行きなさい」。すると、彼らは持って行った。料理がしらは、ぶどう酒になった水をなめてみたが、それがどこからきたのか知らなかったので、（水をくんだ僕たちは知っていた）花婿を呼んで言った、「どんな人でも、初めによいぶどう酒を出して、酔いがまわったところにわるいを出すものだ。それなのに、あなたはよいぶどう酒を今までとっておかれました」」。

イエス様は、僕たちに指示し、六つのかめに水をいっぱいくんでこさせました。すると、かめの水がぶどう酒になったということです。これを象徴として捉えると、六つのかめは旧約聖書に書かれた六つの契約を指します。水がぶどう酒に変化したことは、この契約に新しい生命が与えられたということを指します。そして、来られたイエス様が七数をもたらすのです。

死んだものに新たな生命を与えるイエス様。そして、それは本来、結婚によってもたらされるべきだったのです。私たちは、真の父母がもたらす祝福の価値を歴史的な視野を踏まえて理解すべきなのです。